

福井県・原子力発電所の立地地域の将来像に関する共創会議 ワーキンググループ全体会合（第2回）の議事要旨

日時：令和3年10月21日（木）10：00～12：00

場所：オンライン開催

参加：関係自治体 福井県、敦賀市、美浜町、おおい町、高浜町

関係府省庁 内閣官房、文部科学省

電力事業者 関西電力、北陸電力、日本原子力発電

オブザーバー 小浜市、若狭町、福井県経済団体連合会（書面参加）

事務局 資源エネルギー庁、近畿経済産業局

議事概要

（1）将来像の骨子の素案

これまでの共創会議及びワーキンググループでの意見交換を踏まえ、事務局が提示した将来像の骨子の素案について意見交換を実施。

参加者の主な発言

①将来像の骨子の素案の方向性について

- ・「ゼロカーボンを牽引する地域」、「スマートで自然と共生する持続可能な地域」との将来像の骨子に理解・賛成。
- ・将来像を具体化するには、実効性のある計画と財源が必要。また、毎年検証する仕組みが必要。
- ・ゼロカーボンを軸に、今後の嶺南地域の将来を描いていく点について、電力事業者としても共感。

②具体的な取組について

- ・原子力の圧倒的集積が地域の魅力・競争力の源泉となるような取り組みが必要。
- ・原子力の研究開発、人材育成の面で、嶺南地域が西の拠点として、どのように貢献できるかという視点が必要。
- ・嶺南地域での廃止措置関連、資源加工処理の可能性を議論し、新たな廃炉ビジネスの確立に向けて取り組みたい。
- ・廃止措置をビジネスに繋げていく観点から、デジタル化、見える化することを含め、現在の廃止措置の経験をしっかりと集約していくことが肝要。
- ・嶺南地域で持続的な活動を進めて行くとの観点から、地元原子力関連企業の技術水準の向上について引き続き取り組んでいく。
- ・廃炉ビジネスの構築と原子力関連人材育成等の取り組みの着実な推進が重要。

- ・ 廃炉ビジネスについて、規制の問題をクリアし、事業として成り立つような仕組みに高めていくことが必要。
- ・ 原子力関連産業の雇用の現状を踏まえ、将来どういった付加価値の高い産業へ移っていくべきか分析が必要。
- ・ 「もんじゅ」の取扱いに関する政府方針に記載されている、高速炉の実用化に向けた技術開発の内容を、地域の中でどのように展開していくのか、共創会議の中で示していく必要がある。
- ・ それぞれの市町において同内容の事業を実施するのみならず、各市町の特徴に応じた役割分担を行うことにより、地域全体の発展といった視点が必要。
- ・ 嶺南地域における水素サプライチェーンについて、水素発電所など具体的にどのような可能性があるのか検討していく必要あり。
- ・ 農林水産業の産業拠点化や拡大に向けた視点が必要。
- ・ 北陸新幹線の延伸を好機とし、Uターン、移住、定住促進、観光客誘致に資する取り組みを期待。
- ・ 防災道路の多重化、強靱化、避難道路の整備の早急な実施を求めたい。
- ・ 嶺南地域と嶺北地域との医療格差是正、教育環境の充実を求めたい。
- ・ 嶺南地域に国の研究機関を設置し、新しい産業を牽引していくという視点が必要。